(C)十勝毎日新聞社

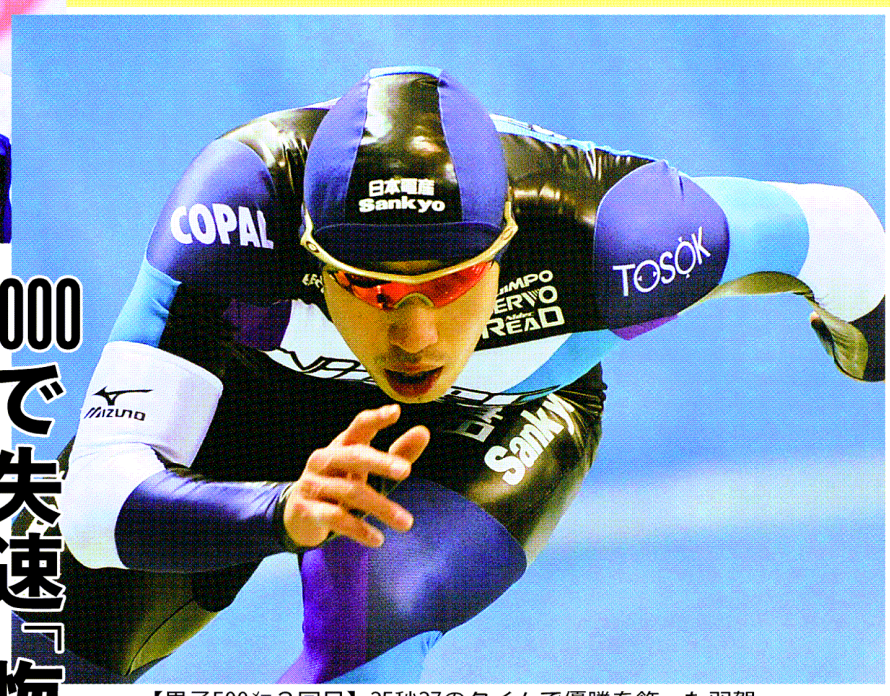
羽賀 高木菜 総合2位

全日本スプリントスケート 小平完全制覇、中村初V

大和田司3位、辻5位

【長野】スピードスケートの第39回全日本スプリント選手権（日本スケート連盟主催）最終日は30日、長野市のエムウエーブで男女4種目を行い、男子総合2連覇を狙った羽賀亮平（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）は3種目まで総合1位だったが、1000㍍で振るわず逆転を許し、2位に終わった。中村駿佑（法大）は総合初制覇。女子は全日本オールラウンド選手権覇者の高木菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）が500㍍で4位、1000㍍で3位となり総合2位に食い込んだ。小平奈緒（相澤病院）は4種目1位の総合完全制覇で長屋真紀子（三協精機・陸別町出身）、橋本聖子（富士急）に次ぐ3人目の4連覇を達成した。（岡部彰広、金野和彦）

男子500㍍で優勝した羽賀亮平は観客の祝福にガッツポーズで応える。右は２位の中尾光杜、左は３位の及川佑



【男子500㍍２回目】35秒37のタイムで優勝を飾った羽賀亮平。総合では２位に入った

十勝勢男子は4種目全てで6位以内に入った大和田司（味のちぬや―北翔大、白樺学園高出）が総合3位と初の表彰台。長島圭一郎（日本電産サンキョー―日大、池田高出）は1000㍍でバランスを崩し総合19位に終わった。女子の辻麻希（開西病院）は、500㍍2位も1000㍍で8位と失速し総合5位だった。

敵なし4連覇「評価できる」 小平

○…敵はいなかった。小平奈緒が2位以下を寄せつけず、4種目完全制覇で女子史上3人目の4連覇を達成した。

今大会は自ら持つ国内最高記録こそ更新できなかったが、「4種目全てで大会記録（大会中に自ら更新した記録を除く）を上回ったのは評価できる」と表情を緩めた。

今大会は、短距離陣の間に中・長距離陣が割って入ってきた。「日本にとってはいいこと」と切磋琢磨（せっさたくま）を喜び、自らも「1月は向こう（オランダ）のチームと一緒に練習できる。これから楽しみ」と新年を迎える。

後半強さ発揮 女王の存在感 高木菜那

○…3種目を終えて総合4位だった高木菜那が、最終1000㍍で3位と再び表彰台に立った。これで住吉都（ローソン）、辻麻希の3スプリンター陣を再度逆転し、総合5位に食い込んだ。

全日本選手権女王の存在感は大きかった。1000㍍はダッシュ力こそ短距離陣に劣るが、後半のラップタイムの落ち幅が少ない。最も世界に近い小平奈緒のスピードには完敗したが、菊池彩花（富士急）とともにオールラウンダーの持ち味を十分に発揮した。

短距離陣にいい刺激を与えた。ただ今村俊明監督は「ラッキーなだけ」とそっけない。高木も「世界と戦うにはまだまだ。オランダ（を拠点とした練習）は会社のお金がかかっている。あと3カ月間危機感を持って臨みたい」とシーズン始めと変わらない思いを抱きながら、今年を締めくくった。

妹・美帆は8位「ひどいレース」

○…高木美帆（日体大―帯南商高出）は総合で8位に終わったが、W杯代表は確保した。

1週間前の全日本選手権で滑りの感覚をつかみかけたが、短距離の今大会は「滑りが固まっていないので体がぶれた。1日目はひどいレースだった」と反省した。

改善しようと臨んだ最終日は、1000㍍で4種目中最高の5位まで順位を上げた。「（代表）選考が懸かったレースでこんな結果に終わるのは弱いところだが、1000㍍は滑りが安定するまで焦らないことが大事と分かっただけでも良かった」と振り返った。

姉・菜那に対し「自己ベストを出すのはすごい」と一目置きながら「平昌五輪で滑ることが大事なので目先にとらわれないようにしたい。互いに刺激し合える存在になれれば」とマイペースを強調。インカレ（来年1月から釧路市）に向けて気持ちを切り替える。

辻、菊池に敗れ「体力不足」反省

○…辻麻希は、住吉都とともに国内女子スプリンターの定位置を中・長距離陣に奪われた。

総合3番手で迎えた最後の1000㍍は、オールラウンダーの菊池彩花との一騎打ち。積極的に飛ばしたが、最終周は前周のラップタイムより3秒3落ちの32秒台と大幅に落とした。「体力不足。（相手を）逆にアシストしてしまった」。

世界スプリント選手権の代表には、今後日本の出場枠が増えても厳しいが、W杯代表は確保した。「長距離陣のタイムを抜かなくては世界では話にならない」と今回の結果を励みにして、来年2月からの国際大会後半戦に臨む。

長島、本調子出ず 新年に切り替え

○…長島圭一郎は、少しでも順位を詰めようと臨んだ最後の1000㍍でも6000㍍地点手前カーブでバランスを崩し失速。いいところなしに終わり、「実力不足です」と肩を落とした。

「シーズンを通して全力でやるのは（年齢的に）そろそろ厳しくなってきた」と、今季は調整の年としていた。しかし残す大会も少なくなってきた。「1月はレースがないのでどれだけ（練習を）やれるか頑張りたい」と、新年ようやく〝本気モード〟に切り替える。2月のW杯ヘーレンフェイン大会（オランダ）の出場権は得た。眠っていたベテランの底力に期待だ。

限界まで頑張れた

男子総合初優勝の中村駿佑の話　偉大な先輩方と肩を並べられてうれしい。3種目を終えて総合1位じゃなくなくなり、かえって肩の荷が下りた。最後の1000㍍は、後に羽賀さんがいたので、プレッシャーをかけたかった。限界ぎりぎりまで頑張れた。

羽賀 次期エース、500は安定

最後の1000㍍。羽賀亮平は積極的に飛ばしたが、最後の周回は足が止まった。3種目まで総合1位を保っていたが、中村駿佑（法大）に逆転を許し、2年連続3度目の優勝を目前で逃した。

今季の日本短距離陣は加藤条治（日本電産サンキョー）が休養中。長島圭一郎は調整中で、及川佑（大和ハウス工業―山梨学院大、池田高出）は腰痛を抱える。その中で羽賀は、ワールドカップ（W杯）帯広大会500㍍で初の表彰台となる3位、同ベルリン大会でも4位に入るなど、次期エースとしての存在感を示した。

今大会も500㍍は2本ともトップに立つ貫禄を見せた。「いいところがない大会だったが、それだけが収穫だったかな」。

ただ笑顔はなかった。1000㍍のラップタイムは2本とも9秒8台。「最低でも9秒6を、調子が良くても悪くても出さなくてはオリンピックとかで結果を残せない」と安定感のなさに物足りなさを感じて終えた。

得意の1000㍍も10月の全日本距離別こそ優勝したが、オフシーズンのけがによる出遅れの影響が体力面に出てきた。今大会は1本目8位、2本目9位といずれも振るわず、これが敗因となった。「勝ちにいった大会だったので悔しい」と不満も口にした。

来年2月に行われる世界スプリント選手権と世界距離別選手権で、エース格としての地位を確立したいところだ。新年に向け「いろいろやってきた材料はある。結果を出せるよう集中したい」と決意を新たにした。

女子総合表彰でトロフィーを手に笑顔で観客に手を振る優勝の小平奈緒（左）、右は２位の高木菜那

羽賀、世界スプリントへ 後半戦日本代表決まる

日本スケート連盟は30日、スピードスケート短距離の国際戦後半戦の代表選手を発表した。十勝関係選手では世界スプリント選手権（2015年2月28～3月1日、カザフスタン・アスタナ）に羽賀亮平（日本電産サンキョー―帯南商高出）の出場が決まった。全日本スプリント選手権女子総合2位の高木菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）は、世界オールラウンド選手権と日程が近いことを理由に出場を辞退した。

◇ワールドカップ第6戦ヘーレンフェイン大会（2015年2月7、8日、オランダ）

▽男子＝中村駿佑（法大）羽賀亮平（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）長島圭一郎（日本電産サンキョー―日大、池田高出）及川佑（大和ハウス工業―山梨学院大、池田高出）長谷川翼（日大―白樺学園高出）ウィリアムソン師円（日本電産サンキョー）大和田司（味のちぬや―北翔大、白樺学園高出）中尾光杜（信州大）

▽女子＝小平奈緒（相澤病院）辻麻希（開西病院）住吉都（ローソン）郷亜里砂（イヨテツクラブ―山梨学院大、白樺学園高出）高木菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）菊池彩花（富士急）高木美帆（日体大―帯南商高出）

◇世界スプリント選手権

▽男子＝中村駿佑、羽賀亮平

▽女子＝小平奈緒、菊池彩花

※W杯ヘーレンフェイン大会終了後に日本の出場枠が追加される可能性あり

【男子1000㍍2回目】コーナーを攻める大和田司。総合3位に入った

大和田初のW杯「経験積みたい」

○…大和田司は初日の1000㍍に続き総合でも3位となり、初のW杯代表を決めた。「1000㍍は良くなかったが、500㍍は自己ベスト。タイム的には世界に通じないが、一応うまくまとめられた」とほっとした表情。

一足先に国際大会に出場している弟の真（帯広連盟）は今回、腰痛のため欠場。「弟なら（1000㍍で）きっと1分10秒台は出している。同じ舞台で勝たなくては」と兄弟の勝負は今後に持ち越し。W杯に向けては「経験をしっかり積みたい」と決意を込めた。

（30日、７位以下関係分）

【男子】▽500㍍２回目

世界記録	ジェレミー・ウォザースプーン（カナダ）		34秒03
日本記録	加藤　条治（日本電産サンキョー）		34秒21
国内最高	加藤　条治（日本電産サンキョー）		34秒64
大会記録	加藤　条治（日本電産サンキョー）		35秒21
リンク記録	加藤　条治（日本電産サンキョー）		34秒64
	ペッカ・コスケラ（フィンランド）		34秒64
①羽賀	亮平（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）		35秒37
②中尾	光杜（信州大）		35・42
③及川	佑（大和ハウス工業―山梨学院大、池田高出）		35・46
④長谷川	翼（日大―白樺学園高出）		35・58
⑤大和田	司（味のちぬや―北翔大、白樺学園高出）		35・60
⑥山中	大地（電算）		35・68

⑦村上右磨（村上電気）35・69⑧長島圭一郎（日本電産サンキョー―日大、池田高出）35・74⑪沼崎高行（道東電機）36・07⑫後藤卓也（日大―帯農高出）36・08⑭今野陽太（開西病院）36・16⑰田渕浩基（日大―白樺学園高出）36・24㉑居城和樹（信州大―帯南商高出）36・37㉒阿部啓吾（法大―帯農高出）36・40㉓磯賢汰（日大―帯農高出）36・44㉔渡部知也（日体大―池田高出）36・58㉘佐々木奨之（日大―白樺学園高出）36・96㉙池田崇将（専大―白樺学園高出）37・02

▽1000㍍２回目

世界記録	シャニー・デービス（米国）	1分６秒42
日本記録	長島圭一郎（日本電産サンキョー）	1分８秒09
国内最高	長島圭一郎（日本電産サンキョー）	1分９秒74
大会記録	中嶋　敬春（日体大）	1分10秒30
リンク記録	シャニー・デービス（米国）	1分８秒92
①中村	駿佑（法大）	1分10秒81
②ウィリアムソン師円	（日本電産サンキョー）	1・11・06
③中尾	光杜（信州大）	1・11・08
④藤野	裕人（法大）	1・11・14
⑤今野	陽太（開西病院）	1・11・20
⑥大和田	司（味のちぬや―北翔大、白樺学園高出）	1・11・28

⑨羽賀亮平（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）1・11・56⑩居城和樹（信州大―帯南商高出）1・11・98⑪渡部知也（日体大―池田高出）1・12・13⑬長谷川翼（日大―白樺学園高出）1・12・39⑯磯賢汰（日大―帯農高出）1・13・01⑱後藤卓也（日大―帯農高出）1・13・31⑲沼崎高行（道東電機）1・13・61⑳阿部啓吾（法大―帯農高出）1・14・13㉑村上右磨（村上電気）1・14・24㉓長島圭一郎（日本電産サンキョー―日大、池田高出）1・17・24

▽４種目総合（最終成績）

世界記録	ミシェル・ムルダー（オランダ）	136.790
日本記録	加藤　条治（日本電産サンキョー）	137.790
大会記録	長島圭一郎（日本電産サンキョー）	141.985
リンク記録	ミシェル・ムルダー（オランダ）	139.885
①中村	駿佑（法大）	142.155
②羽賀	亮平（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）	142.420
③大和田	司（味のちぬや―北翔大、白樺学園高出）	142.495
④中尾	光杜（信州大）	142.745
⑤長谷川	翼（日大―白樺学園高出）	143.370
⑥藤野	裕人（法大）	143.780

⑧今野陽太（開西病院）144.175⑪居城和樹（信州大―帯南商高出）144.765⑬後藤卓也（日大―帯農高出）145.330⑮村上右磨（村上電気）145.500⑯沼崎高行（道東電機）145.640⑱渡部知也（日体大―池田高出）145.845⑲長島圭一郎（日本電産サンキョー―日大、池田高出）146.120⑳磯賢汰（日大―帯農高出）146.230㉓阿部啓吾（法大―帯農高出）147.025

【女子】▽500㍍２回目

世界記録	李　相花（韓国）	36秒36
日本記録	小平　奈緒（相澤病院）	37秒29
国内最高	小平　奈緒（相澤病院）	37秒87
大会記録	小平　奈緒（相澤病院）	38秒22
リンク記録	李　相花（韓国）	37秒60
①小平	奈緒（相澤病院）	38秒06 ＝大会新
②辻	麻希（開西病院）	38・62
③住吉	都（ローソン）	39・02
④高木	菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）	39・26
⑤菊池	彩花（富士急）	39・34

⑥郷　亜里砂（イヨテツクラブ―山梨学院大、白樺学園高出）39・46⑦松田有幾（アルムシステム）39・51⑧高木美帆（日体大―帯南商高出）39・61⑩辻本有沙（信州大―白樺学園高出）39・74⑬永田希絵（高崎健大―帯南商高出）40・05⑰桜井萌美（日体大―白樺学園高出）40・43㉖澤田芽依（山梨学院大―帯三条高出）40・80㉗山根佳子（日体大―帯柏葉高出）40・83㉘太田凪砂（信州大―帯南商高出）40・85㉙土田愛（イヨテツクラブ―山梨学院大、駒大苫小牧高、屈足中出）41・16

▽1000㍍２回目

世界記録	ブリタニー・ボウ（米国）	1分12秒58
日本記録	小平　奈緒（相澤病院）	1分13秒98
国内最高	小平　奈緒（相澤病院）	1分15秒91
大会記録	小平　奈緒（相澤病院）	1分16秒11
リンク記録	クリスティン・ネスビット（カナダ）	1分15秒13
①小平	奈緒（相澤病院）	1分16秒62
②菊池	彩花（富士急）	1・16・87
③高木	菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）	1・17・03
④樋	沙織（日本電産サンキョー）	1・17・94
⑤高木	美帆（日体大―帯南商高出）	1・18・09
⑥松田	有幾（アルムシステム）	1・18・37

⑧辻麻希（開西病院）1・19・24⑫郷亜里砂（イヨテツクラブ―山梨学院大、白樺学園高出）1・19・85⑯永田希絵（高崎健大―帯南商高出）1・21・04⑱辻本有沙（信州大―白樺学園高出）1・21・22㉑澤田芽依（山梨学院大―帯三条高出）1・22・35㉓山根佳子（日体大―帯柏葉高出）1・22・49㉔桜井萌美（日体大―白樺学園高出）1・22・85

▽４種目総合（最終成績）

世界記録	ヘザー・リチャードソン（米国）	147.735
日本記録	吉井小百合（日本電産サンキョー）	150.490
大会記録	小平　奈緒（相澤病院）	154.285
リンク記録	于　静（中国）	151.275
①小平	奈緒（相澤病院）	152.645 ＝大会新
②高木	菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）	155.375
③菊池	彩花（富士急）	156.070
④住吉	都（ローソン）	156.135
⑤辻	麻希（開西病院）	156.410
⑥樋	沙織（日本電産サンキョー）	157.335

⑦松田有幾（アルムシステム）157.475⑧高木美帆（日体大―帯南商高出）157.940⑨郷亜里砂（イヨテツクラブ―山梨学院大、白樺学園高出）158.155⑪辻本有沙（信州大―白樺学園高出）160.190⑭永田希絵（高崎健大―帯南商高出）160.980㉑桜井萌美（日体大―白樺学園高出）163.310㉒山根佳子（日体大―帯柏葉高出）163.420㉔澤田芽依（山梨学院大―帯三条高出）163.880